たけうまファンド

2022年7月31日基準

運用実績

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
6.5%	2.5%	5.7%	0.4%	-3.2%	1352.9%

※ 証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。
※ 過去の実績データがない期間においては数字を未記載としています。

ポートフォリオ構成

実質株式保有比率		93.4%
	国内株式	67.4%
	海外株式	26.1%
現金（円・ドル）		6.5%

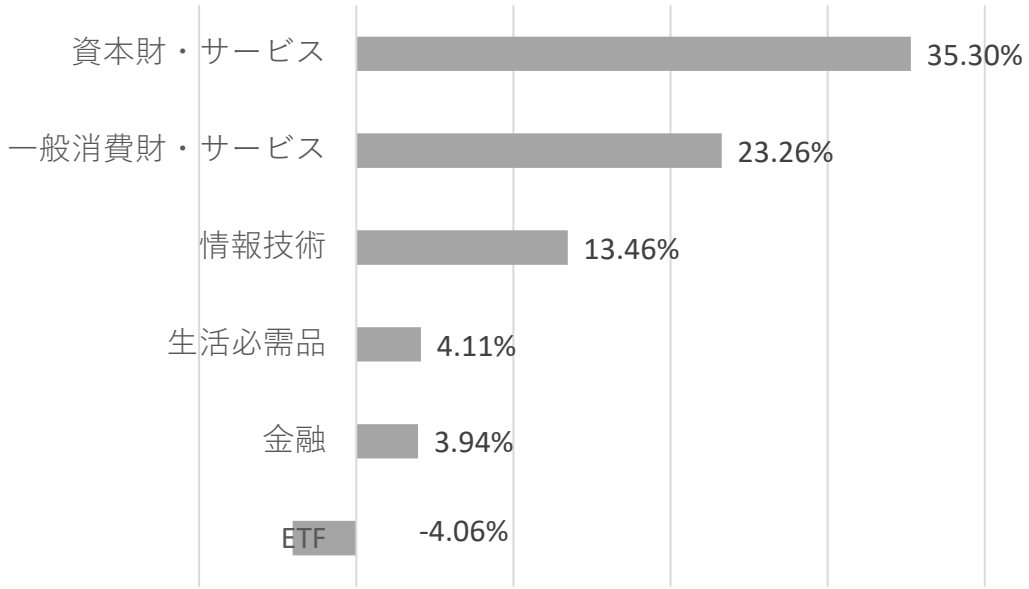
※比率は証券口座の現在の資産残価に対する割合
※信用口座での保有株式については含み損益のみ計上

分配実績

設定来累計分配金　0円

※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
※成長ないので分配なし。

業種別組み入れ比率



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）によるものです。
※ 優待株は含まず。

たけうまファンド

2022年7月31日基準

たけうまファンドの組み入れ銘柄の状況

組入上位10銘柄

	銘柄名	比率 業種	銘柄紹介
1	ウルトラファブリックスHD（4235）	18.69% 一般消費財	湿式合皮製造販売。従来からのSDGs加速にコロナ後の感染対策、テレワーク需要で成長一段階上へ。
2	ドラフト（5070）	10.16% 資本財	オフィスやSC、都市開発のデザイン。社長や優秀な人材が競争力。新しい生活様式での需要拡大期待。
3	ServiceNow, Inc.（NOW）	8.89% 情報技術	ITSM主力のSaaS。業務の自動化、DXは生産性向上に資するため人手不足・高インフレ下でも需要大。
4	シンメンテHD（6086）	7.74% 資本財	飲食店厨房メンテからコロナ禍経て他業種へも拡大。人手不足と感染対策とコスト削減を解決する。
5	日揮（1963）	7.18% 資本財	総合エンジニアリング。世界経済ブロック化に向かう中でエネ安全保障での重複投資の一翼を担う。
6	オカダアイヨン（6294）	6.44% 資本財	解体用アタッチメント。建替え、電炉、バイオマスなどで市場拡大。今期が設備投資のピーク。
7	CrowdStrike Holdings, Inc.（CRWD）	4.57% 情報技術	クラウドからスタートしたエンドポイントセキュリティ企業。顧客のクロスセル進み高い営業効率。
8	Tapestry, Inc.（TPR）	4.57% 一般消費財	コーチやケイトスペード擁する婦人アパレル製造販売。経営危機から復活再生中。コロナ明けに期待。
9	The Procter & Gamble Company（PG）	4.11% 生活必需品	パンパース等超有名ブランド多数。店舗棚を確保できる強力なブランドだけ残す戦略で更に強くなった。
10	MSCI Inc.（MSCI）	3.94% 金融	指数を開発販売。株価指数の提供だけにとどまらず、ESGやファクター含めマルチアセット市場狙う。

※ 上記は組入銘柄の紹介を目的としてたけうまが作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

たけうまファンド

2022年7月31日基準

ファンドおよびマーケットへのコメント

最高運用責任者のたけうまからコメントが届いています。

「皆さん、こんにちは。止まらない物価上昇からのかつてない規模の利上げとそれに伴うリセッション懸念が市場を渦巻く中、悲観を極めたマーケットは予想外の反発のターンとなりましたが、当ファンドは機動的に対応することでその恩恵を享受することに成功し力強い資産成長を成し遂げることができました。」

「まず最初に今月の対応状況を振り返らせてください。もう遠い昔のようですが、月初には参議院選挙がありました。この前に日本株は一部売却をしています。その後指数ETFや東電などで短期売買を行いましたがトータルではマイナスでした。原油価格の下落に伴いウロ戦争で嵩上げされた過剰な期待感が解消されてきたと感じた日揮をポートフォリオに組み入れました。」

「米国株については先月のCPI発表以後ウェイトを下げたままにしていましたが、今月のCPIで一定のピーク感がもたらされてきたと判断しサービスナウ、クラウドストライク、タペストリーを一部買戻しました。サービスナウはタイミングよく取締役の保有株売却があり安く買い戻せました。タペストリーはほぼ同値、クラウドストライクは2割程度高いところで買い戻しとなりました。うまく行ったとは言い難い状況ですが、バリュー寄りの日本株だけウェイトが大きくなりすぎてしまったのと、買戻しのタイミングをずっと計っているのが精神的に疲れてきたのもあり、上記理由から一定程度を買い戻して状況を見ようという判断となりました。」

「結果的にはこれが奏功しマーケットの流れに追随していくことができました。しかしながら唯一買戻しをしなかったMSCIが決算後にひたすら強い動きでこれだけが唯一の失策となりました。この点については反省をしなければなりません。しかしながら、一連の取引において米ドルに偏っていたキャッシュポジションを一部円に戻しており、動く判断をしたこと自体は間違っていなかったと考えています。」

「さて、次は今後のマーケットの動きについてです。年初から今に至るまでのメインテーマは金融引き締めによる過剰なバリュエーションの修正だったかと思いますが、今月の決算期からは今の経済状況を受けての選別が始まるものと考えています。実際ここまでで公表されている決算を見ても、同業でも仕入れ先・対象、商品性、販売先・対象などの細かい違いによって業績に大きな差がついており、40年ぶりのインフレ局面においてストレスのかかっている分野とそうでない分野を見極める難しい局面が到来しているといえるでしょう。」

「まさに個別株投資が効いてくるタイミングなので熱が入るところではありますが、当ファンドは他人資本はなく自己資本だけでの運用を貫いているため難しい時は休めるメリットを活かすタイミングという気もしています。米国株はアップルなどのメガテックが再びけん引する流れもありそうですが、日本株においてはそれも望めそうもなくさらに円高の動きもあり指数の上値は重くなる展開も予想されます。情報収集は続け状況に合わせた対応ができるようしながら8月のマーケットと対峙していきます。」

※ 今後の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります